



# 今こそあらたな動きを



福岡県知的障害施設協議会

会長 小峠 繁

新年あけましておめでとうございませす。昨年中は各役員・会員の皆様方には、いろいろとお世話になりました。感謝申し上げますとともに本年も何分よろしくお願ひ申し上げます。また、ご家族お揃いで、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

正月ともなれば、床飾りも新しい部屋に大家族が集まり、お屠蘇をいただきお雑煮やおせち料理で祝い、その年の神様、五穀豊穡を約束してくれる歳神様が降りてこられるよう、身も心もあらたまる思いで一年を祈願しながら、今も昔も変わらない気持ちは、幾才になってもいいものです。

今年は兎(うさぎ)年です。

烏兎匆匆(うとそうそう・中国では、太陽には三本足のカラス・金烏が、月の中にはウサギ・玉兎がいると言われ、そこからカラスは太陽を、ウサギは月を象徴し、転じて歳月を表す)という月日の経つのが、非常にただ慌しく早いさまを

表す四字熟語があります。「区切りの年」と自ら決断し、「会長就任」を一旦固辞しつつお引き受けして早くも一年が経過しました。

私の皆さんへの思いは、  
●約二百に及ぶ協議会会員の(目・意識・声)を何とか協議会に向け、それが「力」となり得ないか。

●新法制定等周囲の状況が急を告げる。こうした今日的状況下だからこそ、若い世代への、世代交代の時期ではないだろうか。

「戦争を知らない・団塊の世代の私も「定年」を迎えました。法人にも大きな仕事が多く残されています。

「障害者自立支援法」が延命されかねない、最近の由々しき状況です。「廃止」はセンサーシヨナルであり、内閣に障がい者制度改革推進本部を設置、さらに制度改革推進会議や総合福祉部会、作業部会等までは良かったのですが、十分なる議論もな

して衆議院を通過した「障害者自立支援法一部改正案」は、政争の具とされたようで納得しがたい。

状況は従前にも増して先行き不透明の感が強くなった。加えて政治的状況も益々混迷を深めている今日。すべての面において、大きな変革の時期に遭遇している本年。こうした時期だからこそ、何をやるにせよ、周りの人や状況に気配りすることも一方では忘れずに、申し合わせた事を「一心不乱」に実践し突き進みたいものです。

本年が、皆様一人ひとり、また私たち県知的障害施設協議会にとりましても新しい動きのできる一年となりますよう、力をあわせて行きたいものです。

今後とも皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶と致します。

## 目次

- 今こそあらたな動きを…………… 1
- 22年度 研修会報告…………… 2~3
- 第30回ときめきスポーツ大会 …… 3
- 各地区活動報告…………… 4
- 障害者週間啓発各地区活動…………… 5
- 新加盟施設紹介…………… 5
- 全国・九州地区各種別分科会報告 …… 6

## 平成22年度 研修会報告

本会で行った研修会の中で次の3つの研修会に焦点を当ててみました。

## 第2回施設長研修会

平成22年9月8日(水)にホテルセントラーザ博多で第2回施設長研修会を開催しました。法政大学名誉教授 松井亮輔氏を講師に迎え、長年障がい者福祉に携わってこられ、また政府の「障がい者制度改革推進会議」の委員の立場から、「これからの障害者福祉のあり方を考える」と題して、ご講義頂きました。

松井氏は、まず、近年の障がい者福祉施策の流れから、障がい者制度改革推進本部および推進会議の目的を話し、その中で、障がい者の権利に関する法整備の問題や、障がい者施策の総合的な改革が必要であること、制度改革の基本的な考え方としては、障がい者権利条約の締結に向けた理念が重要であり、障害の有無に関わらずそれぞれの個性の差異と多様性が尊重され、それぞれの人格を認め合う「共生社会」を実現することについて説明されました。

次に、『障がい者の権利に関する条約』の重要性について、①障がいの概念②条約の目的③障がいに基づく差別④合理的配慮⑤一般的な原則⑥インクルージョンの重要性⑦障がい者の労働及び雇用⑧相当な生活水準及び社会的な保障という



な保障という



8つの大きな課題に対し一つ一つ具体的に説明されました。その中でも、②の「条約の目的」である『すべての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ

最後に松井氏は、今後高齢化や少子化で労働人口の割合が更に縮小していくことが予想される中、このような時代だからこそ、障がい者、若者、女性及び高齢者等の労働参加を進めていき、それらの人々と多様な形態のディーセント・ワーク(人としての尊厳にふさわしい生活を維持しうるだけの収入を伴う働き甲斐のある仕事)を確保すべく、社会的条件整備(インクルーシブでアクセシブルな共生社会づくり)が不可欠であると結ばれました。

今回の研修会では、障がい者福祉の現状という意味では厳しい部分の話もありましたが、今後「障がい者制度改革推進会議」で論点となる内容も含まれていたことから、これからの障がい者福祉の方向性や施設運営について深く考える時間となった研修会でした。

母原更生センター 野田 秀範

## 人権倫理研修会

平成22年11月16日(火)クローバープラザで人権倫理研修会を開催しました。研修会では、6班に分かれてグループディスカッションを行い、職員同士がそれぞれの立場から「人権」について討議し合いました。

今回の研修会は、講義形式ではなく、施設を運営する上での人権意識と一般世論の人権との乖離が何故起こっているのか、施設の生活の見直しがいかにさらさらに進める形でできるのか？職員間の意志の疎通をどう図っていくのか？医療系でのインフォームドコンセント・高齢者介護施設での拘束ゼロ運動等が障害系の施設で取り組めないのか？保護者との連携は？等々を参加者が意見交換をし、人権を考える機会にさせて頂きました。

施設こそ人権の砦として再構築されなければならぬという熱い思いが伝わる研修会でした。

子ども発達支援センター

JOYひこばえ 門田 雄一



自閉症及び行動障害等専門研修会・  
障害者ケアマネジメント研修会

平成22年8月26日にTKP天神シティセンターで自閉症及び行動障害等専門研修会・障害者ケアマネジメント研修会を開催しました。第1部では「相談支援における困難事例への対応について」と題し、福岡市知的障がい者地域生活支援センターおおほりの森口哲也氏にご講義頂きました。実際の相談支援業務における事例やビデオでの解説をして頂き、大変分かりやすく、参加者のアンケートでも「相談支援の内容や現状を知ることができた。」「貴重な話が聞けた。」など有意義な研修会となりました。

次に、第2部では「自閉症児者の行動特性及び実践的対応について」と題し、なかにわメンタルクリニックの吉岡孝弘氏にご講義頂きました。吉岡氏は、自閉症の特徴を持つ人たちの接遇及び、支援のやり方など実践に基づきながら、強い「こだわり」や、本人の情緒の安定のために行う行動など、自閉症の特徴について説明されました。

吉岡氏の講義を受けた参加者は、自閉症児者が何らかのきっかけでパニックを起こして突発的行動に繋がった場合の対処方法や事前に本人に説明や呼びかけなどを行う事でパニックにならないようにする予防策などについて、改めて再確認

することができました。

グループ討議では、現場職員の経験上からの沢山の意見や、問題・課題が述べられました。各施設の職員が、支援の取り組みについて同じケースで悩んでいたことが、参加型の研修によって明確になり、専門職員としての技術を深められ、質の向上につながる研修会となりました。

これからも、支援スタッフの一員として、定期的に各施設の職員の「生の声」を聞き「今後の支援に大いに役立つ」を motto に、必要な研修会を開催していきたいと思えます。

支援スタッフ委員

石井 邦佳、渡 明雅

平成22年度 本会研修会一覧

研修会名	日程	会場
第1回 施設長研修会	6月28日	クローバープラザ
第2回 施設長研修会	9月8日	ホテルセントラーザ博多
第3回 施設長研修会	10月29日	福岡センタービル
自閉症及び行動障害等専門研修会 障害者ケアマネジメント研修会	8月26日	TKP天神シティセンター
キャリアパス研修会	9月14日	クローバープラザ
人権倫理研修会	11月16日	クローバープラザ
リスクマネジメント研修会	12月6日	TKP博多シティセンター
第4回 施設長研修会	2月17日予定	福岡センタービル

第30回ときめきスポーツ大会



平成22年9月11日

に久留米総合スポーツセンター（久留米市）で、ときめきスポーツ大会が開催されました。大会は、77団体、1,608名の知的障害者が参加し、陸上競技卓球、

ボウリング、フライングディスクなどの各種目において、日頃の練習の成果を発揮しました。当日は、天候にも恵まれ、上位入賞を目指し、一生懸命に競技に挑む選手の姿は真剣で輝いていました。今大会の成績上位者が福岡県代表として、平成23年、山口県で開催される第11回全国障害者スポーツ大会に出場します。

支援スタッフ委員 田代 正昭



## 各地区活動報告

## 福岡地区

福岡地区は、福岡市（28施設）を囲む形で、朝倉、粕屋地区（15施設）・宗像、古賀地区（6施設）・糸島市（4施設）で構成されています。

今年度の地区会は、現在6月22日（24施設参加）と10月5日（27施設参加）の2回開催しています。参加率はいずれも50%弱の状況で、参加施設の増加を、どのように図るかが内容の検討も含め地区会の課題になっています。

第1回目の内容は、①県知障協の新体制についての報告と協力依頼②今後の進め方について研修会方式・新体系移行後の問題点検討等の意見を聴取した。③情報交換を行いました。第2回目は、①名簿の確認と緊急連絡網作成の協力依頼②新体系移行後の事業所の抱える問題点について、意見発表と討議③情報交換を行いました。

福岡地区では、実施する中で生まれた施設長同士の連携を特に大事にしていきたいと思っています。

子ども発達支援センター j o y o ひこばえ 門田 雄一

## 筑豊地区

筑豊地区は、地区会を現在4回各施設（小竹学園、鷹取学園、第2みらく園）で開催し、毎回25名前後の方が参加しています。地区会では、「県知障協の新体制及び組織についての説明、地区で開催する研修会の計画及び反省、キャリアパス・新体系移行に伴う職員定数や勤務時間のあり方などの意見交換、緊急連絡網の作成に向けた協議」などを行っています。

11月19日には穂波学園にて嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所 保健衛生課から講師をお招きし、「院内感染予防の取り組み、ノロウイルス・インフルエンザ及び結核」についての研修会を開催しました。また、平成23年1月には大分県の施設で視察研修会を行う予定です。

筑豊地区では、会員施設の協力により開催場所を各施設で実施している為、他の施設の優れた点などを参考に自身の施設を見直すきっかけにもなっています。今後も県知障協からの情報提供、各地区との連携等を行い、参加者同士で気軽に意見を言い合える関係を大切にしながら、有意義な地区会となることに努めていきたいと考えています。

若宮園 渡 雅代

## 北九州地区

北九州地区は、今年度の地区会を現在2回開催しています。第1回目は、主に県知障協全体の新体制、新組織の説明を行い、新組織の1つである『地区活性化部会』においては、福岡県各地区の関係を活性化することで、情報の共有を図るとともに、各地域・各団体・各施設が更に強い絆で協力していきたい、障がい児・者の生活や環境の更なる質の向上に繋げていきたいとの目的を説明しました。

第2回目では、梅雨時期の大雨などによる災害に対し協議会として、県などに早急な対応の要請を行ったことを報告し、今後も災害等が発生した場合協議会としても積極的に動く体制にあることを説明しました。また、災害時や緊急時の連絡網の整備等の必要性を提案しています。触法少年・者の知的障がい関係事業所での受け入れの問題・福祉・介護人材処遇改善助成金の今後・キャリアパス・障がい者総合福祉法の方向性・障がい者虐待防止法などに関する意見や質問も多く、新しい動きや情報が入り次第、提供していく旨を説明しました。

北九州地区では、地域や各団体の枠を超えて、法制度や情報提供の場としてだけではなく、何でも話し合える、何でも相談できるような場でありたいと考えています。

母原更生センター 野田 秀範

## 筑後地区

筑後地区は、地区の活性化を図り、その中での小さき意見・要望などに耳を傾けながら、本会に提案していく目的を持ちながら、年間2〜3回の施設長会議や職員研修会、障害者週間のメモ帳配布などの活動を行っています。

特に障害者週間のメモ帳配布については、活動の中で特に活発になってきており、各施設の協力により年々参加者が増えています。

筑後地区では、今後もより多くの施設に趣旨を理解していただき、活発な意見交換が出来るように努めていきたいと考えています。

第二北野学園 橋本 昭典



## 障害者週間啓発各地区活動

障害者週間（12/3～9）に合わせて、今年も福岡県4地区で「障がい者に理解を」というテーマで手帳を配る啓発活動を行いました。



福岡地区



北九州地区



筑豊地区



筑後地区

## 新加盟施設紹介

現在の事業内容としては、就労移行事業として施設外就労に取り組みとともに、関連機関と連携して就労の促進に努めています。また、就労継続B型事業では、企業からのプラスチック製品等の受注をうけ、高工賃を目

「K I T」から新規事業所として開所しました。北九州市小倉南区石田南にあり、定員20名（就労移行支援事業10名、就労継続支援B型事業10名）の多機能型事業所です。K I Tは、利用者が安全で安心して利用できる活動の場であると同時に、地域から求められる事業所を目指しています。利用者の方一人ひとりの個性や主体性を尊重し、自己決定を基本とした支援を心がけ、利用者が地域で豊かな市民生活を送れるよう、より良いサービスの充実を図っていききたいと考えています。



平成21年4月1日、指定障害福祉事業所「K I T」（キット）は、新事業体系移行に伴い、さく工藝舎分場

**多機能型事業所 K I T 紹介**



当施設は、就労移行支援と就労継続支援B型の多機能型施設として今日まで19名が一般企

この度、入会いたしました福岡市博多区の社会福祉法人そよかぜの会 食の工房 リンゴの唄です。現在、41名の利用者と一緒に作り、販売しています。お弁当のお客様の多くが高齢者です。高齢者の食を担うということは命を担うことであると考えられており、お客様から必要とされる立場になることを目指し、みんなで頑張っています。また、パン班では、10月に行われた福岡市ときめきセレクションにおいて、リンゴの唄ラスクがなんと「金賞」を受賞することができました。これを契機に更なるステップアップをしていきたいと思っています。

**社会福祉法人そよかぜの会 食の工房 リンゴの唄**

指し取り組んでいます。今後とも利用者、職員ともに、より良いK I Tを目指してまいりますので、ご協力お願いいたします。

第1号の知的障がい者福祉工場が創設されました。仕事の内容は、電機機器製品のコンデンサを加工をしています。今では、トヨタ生産方式（かんばん方式）を取得しQCD（品質・価格・納期）で、客先から信頼される工場を目指して19歳から45歳までの男女23名が従事しています。生活の場は、ほとんどの利用者がグループホームを利用し、元気で自由で伸び伸びとした生活を楽しんでいます。平成19年には、天皇陛下から御下賜金を賜る栄誉を受けました。これからは、さらに物作りの力をつけ、発展と拡大を目指してまいります。



シヅキ福祉工場は、平成13年9月、上場企業である（株）指月電機製作所様（西宮）のご支援を受け、福岡県下

**社会福祉法人 愛光会 シヅキ福祉工場**

業に就労することができました。これからも希望のある未来に向けて利用者と共に歩み続けていきたいと思っています。今後ともよろしく願います。

## 全国・九州地区各種別分科会報告

## 生活支援部会

## 入所更生施設分科会

自立支援法、新体系移行に伴い今後の入所施設のあり方について現在全国でも協議を重ねている所です。九州地区では11月、長崎大会において入所授産施設・入所更生施設、合同研修会を『入所施設の機能と役割』と題し、それぞれの全国種別分科会座長をパネリストに迎え開催したところです。今後も地域のサーフティーマットとしての入所施設の必要性を強く訴えて行きたいと考えています。

みろく園 吉馬 謙二

## 生活支援部会

## 入所授産施設分科会

今年度は、県知障協会員施設内の入所授産施設長を対象とした会議を行っています。また、九州地区の入所授産施設部会長会議を1回、入所更生部会長との合同会議を2回開催しており、「研修会の計画運営・協会への要望」などを協議しています。研修関係では、11月に長崎県で入所更生施設・入所授産施設、合同施設長研修大会を開催しました。全国では、入所授産分科会・通所授産分科会の合同の地区代表者会議が2回行われ、22年度の事業計画・全国授産施設運営研究協議会・授産施設の今後

の活動方針等が協議されました。

また、生活支援部会（入所授産・入所更生）の地区代表者会議が2回行われ、全国生活支援部会全国大会・知的障がい者施設の機能と役割等が協議されました。研修関係では、10月に青森で全国授産施設運営研究協議会が行われ、1月には、生活支援部会全国大会が開催される予定です。

あきさと園 木戸 靖二

## 日中活動支援部会

## 通所更生施設分科会

中央の動きとしては、通所更生施設・生活介護事業所実態調査の原案を作成、日中活動支援事業の内容についての協議を行っています。また、介護支援だけでなく、改めて自立や社会参加に向けた専門支援の必要性等の見直しを進めています。

平成23年1月27日・28日に熊本で九州地区通所更生施設職員大会が開催されます。参加者の日頃の悩みや課題の解決につながる研修内容となっています。たくさんの方の参加をお待ちしています。

おおほり苑 岩見 景子

## 発達支援部会

## 児童通園分科会

全国の活動では、今年度は現在までに発達支援部会地区代表者会議が2回行われました。主な協議内容としては、①22年度全国施設長会議（7月5日6日開催）の分科会の運営について②障害児支援に関する特別委員会について③当面の障害児支援に関する論点についての見解について報告及び議論を行いました。②については施設類型の変更が見込まれることから福祉協会として障害児施設の将来に向けた総合的な検討を行うための特別委員会を設置することとなり、厚労省の障害福祉総合推進事業の研究事業に協力連携を進めることになりました。また、福祉協会発達支援部会として実施計画が採択されたことが報告されています。

九州地区としての活動では、現在は、児童施設分科会と共同で「九州地区知的障害者福祉協会発達支援部会研修会」の開催、九州地区知的障害者福祉協会各種別分科会での分科会会議での協議が主な活動となっています。

光の子学園 竹藤 望

## 支援スタッフ部会

九州地区の支援スタッフ部会で

は、現在、九州地区知的障害関係施設職員研修大会のテーマ・分科会等の項目検討や九州地区親善球技大会の在り方の検討を行っています。また、日本的障害者福祉協会 支援スタッフ部会より出版された「見直そう あなたの支援を」の続編に向けて、内容等の協議を行っています。

ほつとスベースあさくら

石井 邦佳

## 編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は役員改選のため広報委員が変わり、改めてスタートを迎えた年でした。本年度は広報誌「とびうめ」を2回発行することができ、内容については、本会役員の紹介や、研修会の内容、各地区の活動内容、新たに加入された施設の紹介等を掲載させていただきました。次年度は「障がい者総合福祉法」（仮称）の制定に向けた動きを含めた情報提供やさらに充実した広報誌づくりに努めていきます。本年もよろしくお願ひします。

広報・情報委員会一同

